

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校経営中期取組目標

#### 学校経営中期取組目標

学校教育目標実現のために、〔希望〕〔幸福〕〔他愛〕あふれる、児童・保護者・地域・教職員にとって魅力ある学校づくりを進めます。

- 一人ひとりの子どもが、日々の授業や様々な行事等において、主体的に課題を解決する学びを大切にし、授業力の向上に取り組みます。
- 一人ひとりの子どもに寄り添い、互いを認め合う心、豊かな心、そして、たくましく健やかな体を育むように努めます。
- 一人ひとりの子どもの学びと生活を支える教育環境の整備、改善を進めます。
- 一人ひとりの子どもが、地域の行事や交流活動を通して、まちに貢献する心を育みます。また、近隣の幼保小中高大学連携を進め、教育活動の充実を図ります。

### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

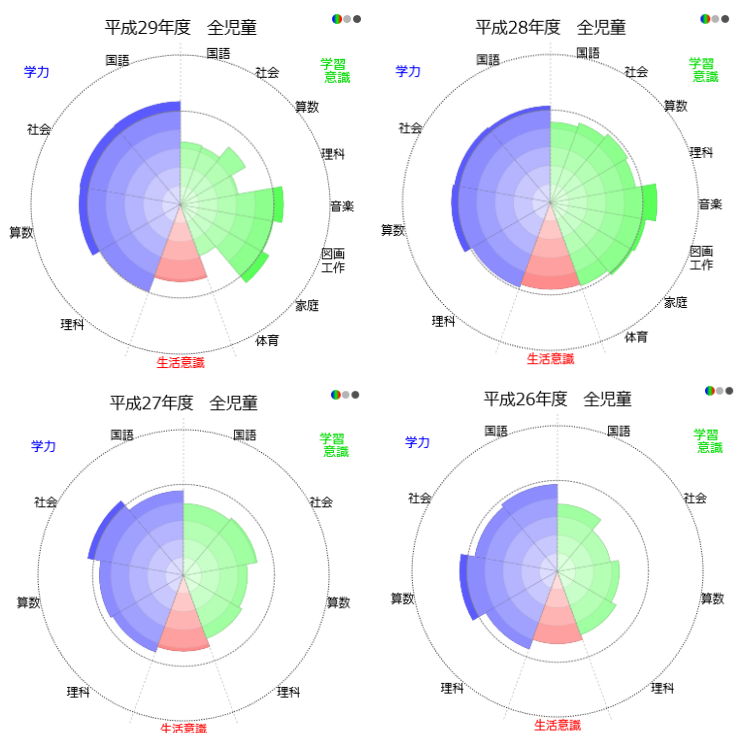
重点取組分野		取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)		基礎・基本の定着とともに、育成を目指す資質・能力を明確にし、主体的・対話的で深い学びを大切にした授業を追求します。	子どもが自ら問題を見だし、互いにかかわり合いながら問題の解決に取り組むなど、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、問題発見・解決を踏まえた学び方など、学力向上アクションプランの取組として全学年で実践できるようにしていきます。朝のスキル・読書タイム、各学年の発達段階に応じた家庭学習を実施し、学習の習慣化、基礎的・基本的な学習事項の定着を図ります。
担当	教育課程部		

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

### (1) 学力の概要と要因の分析

横浜市学力・学習状況調査結果より、H26年度からH29年度にかけて、国語、社会、算数は市平均を上回り、理科も市平均と同等となったことから、各教科の学力が向上していることが分かる。一方学習意識、生活意識はH28年度からH29年度にかけて、低下している。

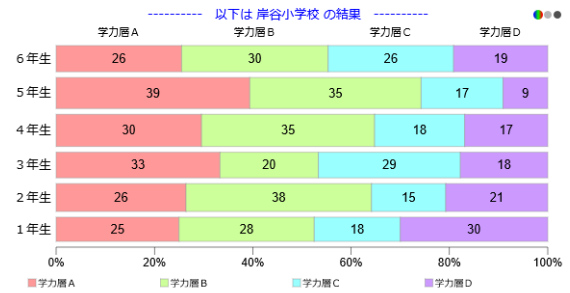
国語、算数の学習が好きである、大切であると回答する児童が減少するなど、子ども自身の主体的な学びになっていないこと、学んだことを学習や生活で活用できず、その有用性を実感できていないことなどが学習意識、生活意識の低下につながっていると考えられる。主体的、対話的な学びに向けて授業改善を図り、問題発見、問題解決を通し、その有用性を感じし学びを活用しようとする意識を高めたい。また、学年の実態に応じた発言の仕方、ノートまとめ方、振り返りの仕方などの段階的な指導やスキルタイムの充実を図る必要がある。



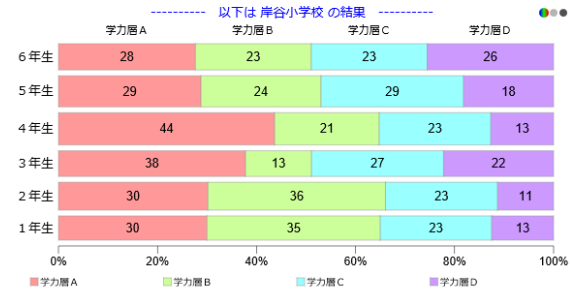
### 【学力層について】

- ・国語、算数の両教科とも学力層 A と B の児童を合わせると、全学年半数を超えている。一方で学力層 D の児童が 3 割近く占める学年や教科もある。
- ・各学年とも総じて低学力層の割合が大きい。特に 3 年生以上での低学力層の割合は大きく、低学年から基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る授業が求められるといえる。
- ・国語では 1,3,6 年が、算数では 3,5,6 年が学力層 C と D の児童を合わせると全体の約半数を占めている。学年が上がるにつれて、学習の積み重ねを確実にしていくとともに、学力の定着を図る必要がある。
- ・学習意識、生活意識の低下に伴って、学力の低下や学年によるばらつきがある。意識向上と学力向上の両面から指導していく。

### 国語

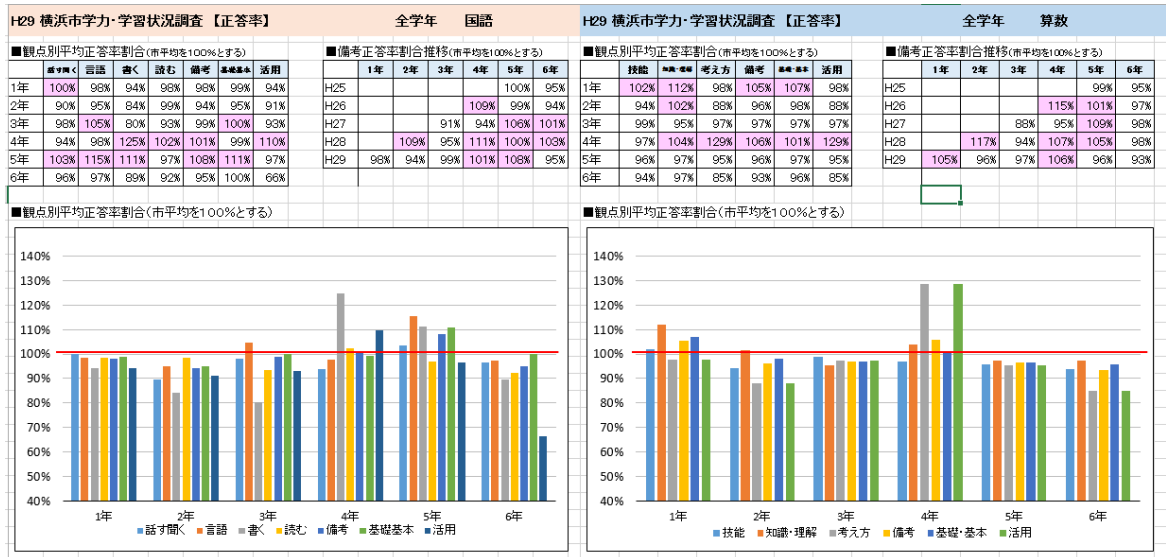


### 算数



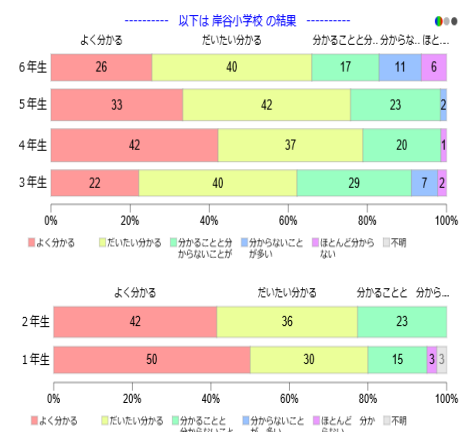
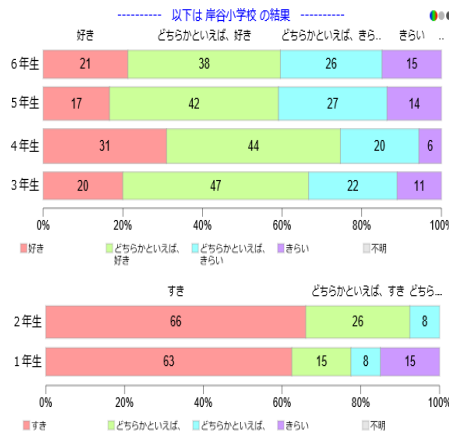
## (2) 教科学習の状況

- 国語科：4年生では書くで市平均を大きく上回り、5年で市平均を上回るものもあるが、他は下回る。
- 算数科：1、4年で市平均を上回るものもあるが、他は下回る。



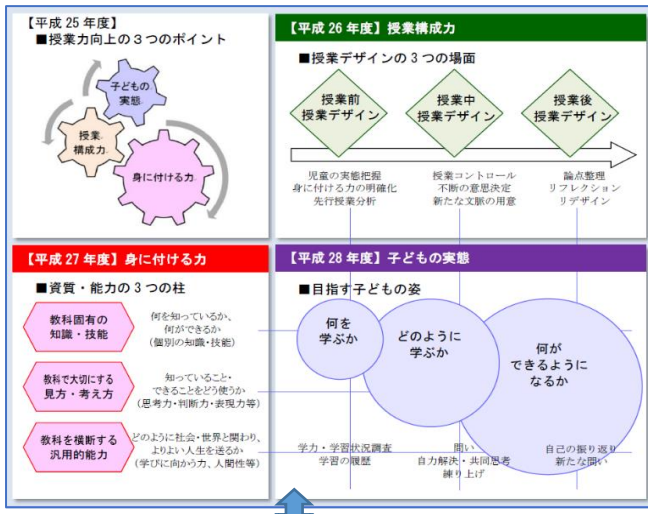
## (3) 経年変化の状況と要因の分析

「勉強は好きか」と「授業は分かるか」という二つの設問について、学年が上がるにつれて概ね低下傾向にある。高学年については、授業が分かる児童が7割程度に対し、勉強が好きな児童は5割程度となっている。この結果から、児童が自ら進んで課題を採求したり、協働的に学ぶよさを実感したりすることに課題があると考えられる。



### 3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

## 授業デザイン



主体的・対話的で深い学び

これまでの本校の研究により、育成を目指す資質・能力を明確にし、子どもの実態把握、評価に焦点をあて、期待する子どもの姿をもち、目の前の子どもの実態をとらえ、授業デザインしていく。話し合いの中から課題を見出し解決したり、互いの意見を交流したりするなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、日々の授業を実践していく。実践を重ねる中で、成果や課題を検証し、指導計画を改善しながら、資質・能力の育成、主体的・対話的で深い学びに向けて、各教科間で関連を図り、総合的、横断的な授業をデザインしていく。また、話す・聞く、まとめる、振り返るなど、主体的・対話的な学びを支える学習スキルの定着も不可欠である。さらに、基礎的・基本的な学習事項について、生きて働く知識・技能として定着を図る。

#### 主体的・対話的な学びを支える学習スキルの定着

自分たちで課題を見だし、解決するために粘り強く取り組む子どもに育てたい。今までの学習や生活経験の中から課題を見つけてあげることができるよう、丁寧な振り返りをしていく。意見を進んで発言し聞き合うなど、話し合いを進められるよう、各学年の段階に応じた話型を掲示したり、問題解決のプロセスや解決方法、学習内容、ノートのとめ方などを掲示したりする。学習場面で繰り返し確認していくことで主体的・対話的な学びを支える学習スキルの定着を図る。

#### 見方・考え方を働かせ、学びを深めるプロセス

解決過程を説明するなど互いの表現、思考を深めていく。また、学習の振り返りをし、何ができるようになったのかを自覚化できるようにする。こうした問題発見、問題解決のプロセスを学びの文脈として授業を展開していくことにより、主体的に学びを進める力を身に付けられるようにする。

岸谷SR	スキルタイム	読書タイム	家庭学習
<p>少人数グループでの学習指導と、3年～6年の算数での習熟度別指導により、個々の実態に応じた指導を行い、課題に取り組む。</p>	<p>火曜日～木曜日までの朝の時間にはまっ子ドリルなども活用し計算や漢字などのスキル学習を行う。繰り返すことで基礎的・基本的な学習事項の定着を図る。</p>	<p>火曜日～木曜日までの朝の時間、スキルタイム後に読書タイムを設定。各学年で年間読書目標冊数を設定し、読書の習慣化を図る。</p>	<p>各学年、音読、国語や算数のプリントなど、毎日家庭学習を行い、家庭と連携し学習の習慣化を図る。</p>
<p>取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個の状況に応じた補充的学習</li> <li>・算数の基礎的・基本的な学習</li> </ul>	<p>取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルタイムの徹底</li> <li>・学年でやることを相談、揃える</li> </ul>	<p>取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【もじもじ貯金通帳】の活用→読書量の見え化による意欲の向上</li> </ul>	<p>取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読カード</li> <li>・宿題カード</li> <li>・学年でやることを相談、揃える</li> </ul>